

西日本学生レスリング選手におけるスポーツ傷害の実態調査

○梶原 健一 (かじはら けんいち)^{1),2),3)}, 安永 英樹²⁾, 藤山 慎平³⁾

¹⁾ RESTA Re Conditioning Center

²⁾ やすなが整形外科

³⁾ 九州共立大学

【はじめに】

2013年度より、西日本学生レスリング連盟主催大会にメディカルスタッフとして帯同している中で、重度な傷害を目にする機会が多い。今回、アンケート調査を実施し、傷害の実態を明らかにすることを目的とした。

【対 象】

2015年10月16～18日に開催された、西日本学生レスリング選手権大会出場選手235名(アンケート回収率214名, 91.1%)を対象とした。内訳は、フリースタイル72名(以下:フリー)、グレコローマンスタイル36名(以下:グレコ)、両スタイル出場者106名(以下:両)とした。

【方 法】

自己記入法を用いて、傷害アンケート調査を実施し、内容は①傷害発生件数②受傷部位別③スタイル別(フリー・グレコ・両)の調査を実施した。傷害は、大学在学中に3週間以上復帰まで要したものとし、受傷部位は14部位に分類(頭部・顔面・頸部・肩関節(以下:肩)・肘関節(以下:肘)・手指関節(以下:手)・肋骨・腰部・股関節・大腿部・膝関節(以下:膝)・下腿・足関節足部(以下:足)・その他(以下:他))した。

【結 果】

①214名中77件(35.9%)であった。②顔面2頸部6肩10肘8指手2腰7膝26下腿2足11他3件であった。③フリー72名中24件(33.3%)頸部2肩1肘2腰2膝7足8他2件、グレコ36名中20件(55.6%)顔面1肩3肘1手1腰1膝11下腿2件、両106名中33件(31.1%)顔面1頸部4肩6肘5手1腰4膝8足3他1件であった。

【考 察】

今回の実態調査で、傷害は214名中77件(35.9%)であり、受傷部位別は、77件中26件(33.8%)膝関節に最も多く、2008年JISSスポーツクリニックのレスリング選手受診状況(以下:JISS)は745件中227件(30.5%)と膝関節に最も多く、中嶋の報告と同様の結果となった。次に、足11肩10肘8腰7頸部6件順に傷害を認め、競技の危険性を示した。スタイル別は、四肢を自由に用いるフリーは足8膝7件順で下肢に多く、腰から下を使わずに上肢を用いるグレコは膝11肩3件と膝関節が最も多く、両は膝8肩6肘5頸部4腰4件順で多部位に傷害を認めた。JISSでは、フリー足59膝166件順、グレコ膝61肩66件順であったが、西日本学生レスリング選手は、傷害部位は類似しているが、比較的専門選手の少ないグレコが膝関節に傷害が多い特徴を示した。今回、得られた調査結果をもとに、組織的な傷害予防・安全対策を確立する必要があると考える。